

研究授業「教育実習事前事後指導Ⅱ（小）」についての考察

—小学校教員志望者の ICT 活用—

藤 本 駿 *

Reflections on an Open Class “Pre-and Post-Guidance on Teaching Practice II”

—ICT Skills for Elementary School Teachers—

FUJIMOTO Shun

要約

本稿は、2024 年度前期の発達科学部研究授業「教育実習事前事後指導Ⅱ」についての報告であり、授業の概要及び課題について言及している。研究授業のテーマは、「小学校教員志望者の ICT 活用」である。授業内容は、小学校における ICT 活用の必要性について理解すること、電子黒板やタブレットパソコンの基本的な操作方法を身に付けること、ICT を効果的に活用した授業を考えることを企図した。

キーワード： 小学校教員 ICT 活用 教育実習事前指導

Abstract

This paper is a report of reflections on an open class Contents of “Pre-and Post-Guidance on Teaching Practice II” in the Faculty of Human Development of Takamatsu University in the first semester of 2024. This report refers to the implementation outline, considerations and further challenges. The theme of the research class was “ICT skills for elementary school teachers”. The contents of the class were to understand the necessity of ICT utilization in elementary schools, to learn the basic operation methods of electronic blackboards and tablet PCs, and to think about effective lessons using ICT.

Keywords : Elementary School Teachers, ICT Utilization, Pre-Guidance on Teaching Practice

1. 研究授業の実施

研究授業及び検討会は以下の日程で実施された。

1. 1 研究授業の日程

(1) 研究授業

日時：2024 年 7 月 8 日（月）1 校時

場所：1 号館マルチメディア演習室

受理年月日：2024 年 11 月 27 日 *高松大学発達科学部准教授

科目名：教育実習事前事後指導Ⅱ（小）（講義、1単位）

対象学年：小学校教諭一種免許状取得希望の3年生

当日の受講生は、受講登録者19名に対し、16名の出席であった。

参観教員：発達科学部教員10名

(2) 受講生の状況

①受講態度

受講態度は良好である。全ての学生が小学校教諭一種免許状取得希望者であり、教員免許状取得に向けて意欲的に取り組んでいる。また、9月に小学校教育実習が迫っており、緊張感を持って受講している様子が窺える。授業中は積極的に発言する学生が多く、自分の考えを明確に述べる事ができている。一方、私語をしたり、集中力が欠けていたりする学生も一定数いるため、授業に主体的に参加できるような指導上の工夫が求められる。

②座席

今回使用したマルチメディア演習室では、タブレットパソコンを2人で共有して使用するため、ペアで自由に着席させた。受講学生全員が教員免許状取得希望者であるため、ある程度人間関係が構築できている。授業に積極的に参加させ、活発な意見交換を促すためには、授業者が座席を指定するよりも、受講学生同士で自由にペアを組ませる方が効果的であると考えた。実際に、どのペアも、活発に意見交換しながら受講している様子を確認できた。

(3) 授業検討会

日時：2024年7月9日（火）4校時

場所：2号館2階2217講義室

参加者：8名（発表者含む）

2. 「教育実習事前事後指導Ⅱ（小）」の授業計画

【担当教員】峯寛文、佐々木啓祐、藤本駿

【授業の紹介】

教育実習事前事後指導での学修を通して、教育実習が円滑且つ効果的に行われるよう、実習の前後に講義・演習を行うものです。教育実習の目的・目標・方法等の概要、実習の心得等について理解を深め、課題をもって実習に取り組めるようにするとともに、教育活動に必要な知識・技能の修得をめざします。2年次に履修した「学校支援ボランティアⅠ、Ⅱ」の体験を生かし、質の高い実践力、豊かな人間性や主体的に生きる力を身に付けることができるようにします。

【授業の到達目標】

1. 小学校教諭の業務や職業倫理について理解し、教師としての使命感や倫理観を培うことができる。
2. 学校教育活動に必要な知識や判断力を修得することができる。
3. 学習指導計画の作成・実践・記録・評価等を体験する中で、教師として必要な技能、実践力を修得することができる。
4. 自己評価及び自己課題の明確化を通して豊かな人間性を育むことができる。

【授業計画】

- 第1回 教育実習の意義と目的
- 第2回 教育実習の概要・心得・態度等
- 第3回 教育実習の内容と方法、実習日誌の書き方
- 第4回 学習指導案の書き方と教材準備の仕方
- 第5回 各種トラブル等の具体的解決策
- 第6回 実習直前の準備と心得
- 第7回 指導案作り(略案：本時の学習指導)
- 第8回 指導案作り(細案：単元の目標、単元について)
- 第9回 指導案作り(細案：評価規準、単元計画、本時の学習指導)
- 第10回 電子黒板、タブレットの活用について (本時、日程の都合上第12回に実施)
- 第11回 特別の教科道徳について(学習指導要領から)
- 第12回 道徳科の授業づくり(ロールプレイの実際)
- 第13回 教育実習の成果・課題等についての振り返り
- 第14回 教育実習報告会に向けて(報告資料の作成)
- 第15回 教育実習報告会に向けて(役割分担、印刷、製本等)
- 第16回 教育実習報告会(前半発表者)
- 第17回 教育実習報告会(後半発表者)

【成績の評価】

授業への参加態度(40%)、教材研究のあり方(30%)、実習のまとめ(30%)等から評価します。
報告会において、各自の成果と課題について、説明、講評する。

3. 本時の授業について

3.1 授業計画

(1) 講義テーマ：小学校における ICT の効果的な活用

(2) 授業の目標

- ・ GIGA スクール構想など近年の動向を把握し、小学校における ICT 活用の必要性について理解する。
- ・ 電子黒板やタブレットパソコンに触れながら、基本的な操作方法を身に付ける。

- ・ICT を効果的に活用した授業を考えることができる。

(3) 授業の概要

本時の授業内容は、今年度より追加された内容である。近年、GIGA スクール構想の実現を目指し、1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワーク環境が学校現場に急速に整備された。また、「令和の日本型学校教育」を構築し、全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びを実現するために、ICT は必要不可欠とされている。受講学生の多くは、高松市内の小学校で教育実習を行う予定であるが、高松市内の小学校ではすでに電子黒板やタブレットパソコンが導入済みであり、積極的に活用されている。そのため、教育実習中にも、電子黒板やタブレットパソコンを使用する可能性は十分にあり、教育実習予定の学生は、教育実習前に電子黒板やタブレットパソコンを含めた ICT の操作や、ICT を活用した授業を展開できる力を身に付けておく必要がある。

以上より、本時では、まず、GIGA スクール構想のポイントを踏まえ、ICT 活用の必要性について理解する。次に、電子黒板やタブレットパソコン（高松市が導入している SKYMENU Cloud を搭載）に触れながら、それらの操作方法を習得する。さらに、電子黒板やタブレットパソコンを活用した授業方法を検討することで、教育実習中にも ICT を効果的に活用した授業が展開できるようにしたい。

(4) 指導案（指導内容）

時間	学習内容	授業内容、指導上の留意点
8:40	授業開始までにタブレットパソコンにログインする（ログイン方法は配布資料を参照）。	電子黒板、タブレットパソコン（教員用 1、生徒用 10）の準備。SKYMENU Cloud は生徒用のアカウントが 10 台しかないため、今回は 2 人で 1 台のタブレットパソコンを使用する。
9:00	○本日の授業内容を把握する。 ○ICT 活用の必要性について理解する。	○挨拶・出席確認 ○本日の授業内容を提示し、授業の見通しを持たせる。電子黒板やタブレットパソコンは教育実習中に使用する可能性があるため、実習までに基本的な使い方を身につけておく必要があることを伝える。 ○ICT 活用の必要性についてパワーポイント資料で説明する。ICT とは何か、GIGA スクール構想とはどのようなものか、学生とやり取りを

		しながら確認する。教師が ICT を活用することに加え、ICT が児童の「学びの道具」であることを伝える。
9:15	○SKYMENU Cloud の基本的な操作方法について、実際に触れながら学ぶ。 ○マイページ画面を確認する。 ・「授業に参加」を選ぶ。 ・「カメラ」を使用し、「教材・作品」に写真を保存する。 ・「気づきメモ」に考えたことを記入する。	○SKYMENU Cloud の基本的な操作方法について説明する。ログインできているか確認する。できていないペアがいれば個別に対応する。 ○マイページ画面を確認するように伝える。 ・グループを作成して「授業」を開始する（「発達科学部」「1年生」を選択）。 ・「カメラ」機能を使い、近くにあるものを自由に撮影するように指示する。「教材・作品」に写真が保存されていることを確認させる。 ・「気づきメモ」を開き、「児童がカメラや気づきメモを使い、どのような効果があると思いますか」と問いかけ、コメントさせる。 →例えば、授業中に児童が頑張ったこと、工夫したこと、難しかったことなどを写真や文字で記録できることなど。
9:30	○「教材・作品」項目をクリックし、道徳科の教材を開き、各自で読む。 ○「ポジショニング」を使用し、自分の考えがどこに位置づけるかを回答する。その理由も書く（ペアで考える）。	○道徳科の教材（「手品師」私たちの道徳 6 年生、学研）を用いて、授業での活用方法について考えさせる。道徳科は心情の変化などを把握するために、ICT が活用しやすいことを伝える。SKYMENU Cloud を通して教材のコピーを配布し、各自で読むように指示する。電子黒板にも提示する。 ○「ポジショニング」を使用し、「あなたは手品師の取った行動に賛成ですか、反対ですか、その理由も書いてください」と問いかける。 ・全員の回答後、「ポジショニング」を提示し、全体としてどのような傾向があるか確認する。賛成と反対それぞれの理由をいくつか示す。必要であれば実際に数人に説明させる。

	○「発表ノート」にその後の授業の展開を記入する（ペアで考える）。 ・完成後、「提出箱」に入れる。 ・「発表ノート」をもとに発表する。どのような機能を使ったかを説明する。	○「発表ノート」を配布する。「発表ノート」の機能（ペンや図など）を使い、「電話があったときの手品師の気持ち」「あなたが手品師だったら何を大切にするか」について記入させる。 ・どのペアが提出したかを一覧で確認できること、教員がその場で「発表ノート」に書き込んだり、返却したりできることを伝える。 ・提出された「発表ノート」からいくつか選び、発表させる。「発表ノート」の工夫した点についても確認する。
10:00	○電子黒板に実際に触れながら、どのような操作ができるかを学ぶ（代表ペアのみ。時間があれば他のペアと交代）。	○電子黒板の操作方法について実際に触れながら、どのような操作ができるか気づかせる。 ・「発表ノート」を参考に代表ペアを選び、電子黒板を自由に操作させる。 ・デジタル教科書の表示と動作の確認や、ホワイトボードの使用などを確認する。
10:10	○授業全体を踏まえ、タブレットパソコンや電子黒板など ICT を活用した授業について、道徳科以外でどのような教科や単元で可能か、ペアで考える。 ・「シンプルプレゼン」の機能を使い、ペアでの考えをまとめる。シンプルプレゼンは字数が制限されており、簡潔な言葉で作成する必要があることを実感する。 ・提出後、ペアごとに発表する。	○授業全体を踏まえ、タブレットパソコンや電子黒板など ICT を活用した授業について、道徳科以外でどのような教科や内容で可能か、ペアで考えさせる。 ・「シンプルプレゼン」を使い、まとめさせる。 ・提出後、いくつかのペアに発表させる。 →どの教科でも可能であることを伝える。 SKYMENU Cloud のホームページ「実践事例」から様々な授業が紹介されているので、授業後に閲覧するように伝える（サイトへのリンクはクラスルームに貼り付けておく）。
10:20	○今日の授業の振り返り ・授業全体を振り返り、学んだこと、気になったことなどをク	○今日の授業の振り返り ・授業内容についてまとめる。 ・「教育実習事前事後指導」のクラスルームか

	ラスルームに投稿する。	ら、授業の感想を投稿するように伝える。
10:30		○授業終了、次回の授業の確認

(4)準備物

- ・電子黒板 1 台（マルチメディア演習室より借用）
- ・SKYMENU Cloud 搭載のタブレットパソコン教員用 1 台、生徒用 10 台（マルチメディア演習室より借用）
- ・配布資料「タブレットパソコンの使用方法について」
- ・配布資料「授業レジュメ（第 12 回 小学校における ICT の効果的な活用）」
- ・パワーポイント資料（後日クラスルームに添付）

(5)授業の参考資料

- ・文部科学省「授業がもっとよくなる電子黒板活用」2015 年。
- ・文部科学省「学びのイノベーション事業 実践研究報告書」2012 年 4 月。
- ・文部科学省「小学校学習指導要領（平成 29 年告示）」2017 年 3 月。
- ・文部科学省「リーフレット GIGA スクール構想の実現へ」2020 年。
- ・文部科学省「教育の情報化に関する手引―追補版―」2020 年 6 月。
- ・独立行政法人教職支援機構「教職ブラッシュアップ編 ICT 活用（GIGA スクール構想）」資料」2020 年。
- ・中央教育審議会答申「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」2021 年 1 月。
- ・香川県教育委員会「香川県学校教育情報推進化計画」2023 年 12 月。
- ・高松市教育委員会「第 2 期(2024～2027 年度) 高松市 ICT 教育推進計画」2024 年 3 月。
- ・SKY 株式会社「SKYMENU Cloud らくらく操作テキスト」2021 年 9 月。
- ・SKYMENU Cloud ホームページ（<https://www.skymenu.net>） /

4. 授業検討会及び参観記録における参加者からの意見

4.1 参加者からの意見

(1)授業を積極的に評価できる点

①教育内容

・「SKYMENU Cloud」の操作方法については、毎年、4 年生が「教職実践演習」で高松市総合教育センターを訪問し、センター指導主事から指導いただいている。今回 3 年生が、9 月の教育実習に際して、あらかじめ操作方法について学んでおくことは、画期的とも言ってよいほどに大きな意義がある。センターでは、各学校に配布され、多くの教員が日常的に活用している「デジタル教科書」も紹介され、操作方法を体験している。これらのことが、大学の授業で行われることに大きな意義がある。

- ・小学校で使用しているスカイメニュークラウドの基本的操作を、学生にタブレットパソコンを使用させ、その基本的な操作、活用ができるように指導できた。
- ・授業の初めに、本日の授業のねらいや 90 分間の学習の流れを示し見通しを持たせたことは、教育実習を目前に控えた学生にとって、主体的な学びにつながると感じた。また、基本的な操作や「ポジショニング」などの機能の活用等、本時の中で取り扱った内容も適切であったと感じた。
- ・小学校教諭免許状取得希望の学生が学校現場での ICT 活用状況を知り、教育実習前にタブレットパソコンや電子黒板等に触れることができ、よかったと思います。授業で実践的に ICT を活用するイメージをもつことができる内容でした。

②授業方法

- ・少人数の利点を最大限にいかされ、行き届いた個別指導や教員と学生の双方向のやりとりのある授業であった。大学では教員が一方的に講義するという授業がいまだに見かけるが、このように教員の発問や学生の応答によって授業が形づくられていく授業は、とりわけ小学校教育養成をめざす本学部の授業では必要だろうと思う。
- ・カメラ、気づきメモ、ポジショニング、発表ノートなど、学生が実際に一つ一つ確認し、やってみることにより、操作できるようになった。
- ・二人一組で作業、一人で発表、全体に向けて講義など様々の形態で授業が展開されて、変化に富んでいた。
- ・学生は、電子黒板やタブレットの操作や活用方法について、学校支援ボランティアで目にしてはいるものの活用機会はほとんどないため操作技術も身につけていない。二人組のペアを作り二人で 1 台のタブレットを使用することで学生同士の交流が積極的に行われていた。
- ・ICT 環境を整備したマルチメディア演習室で SKYMENU Cloud を体験するなど、教員養成課程履修生に対して、初めてマルチメディア演習室を活用して ICT の体験を授業に取り入れることができました。今後の演習室の活用につながる貴重な初回になったと思います。

③その他

- ・タブレットパソコンの不具合が発生したようで、2 名の学生が当初の作業ができなかったと思われる。不具合はよく発生するが ICT を活用する教育の弱点かもしれない。
- ・文字、色味、強調の仕方、情報量、内容等、とても分かりやすい授業スライドでした。
- ・2 人で 1 台のタブレットパソコンを使用したことがよかったと思います。
- ・学生の実態に応じた分かりやすい発問及び指示でした。
- ・参観者用に作成していただいた資料のおかげで、指導上、留意していることがよく分かりました。

(2)授業の改善にかかわる点

①教育内容

- ・学部としての課題となるが、「SKYMENU Cloud」や「デジタル教科書」を使った授業は、小学校で活用頻度の高い科目ほど、本学部でも、例えば「〇〇教育法」などの授業で、できれば2年生までに行うことができればよいと感じた。
- ・スカイメニュークラウドの諸機能をかんたんに整理した表を事前に配布し、予習させておけばどうか。
- ・（発達科学部の教員養成課程における ICT 体験に関する意見として）教員志望者が、今後、教員として ICT を活用できるようになるために、本学の授業科目で ICT 活用をどのように学べばよいか、授業科目や内容、時間数を、検討した方がよいのでしょう。

②授業方法

- ・これもまた、学部としての課題であるが、Active Learning の授業（主体的で対話的な授業）を行わなければならないと思う。教育の一方的な講義形式の授業は、本を買って読めば講義を受ける必要はない。各教員が日頃から、それぞれの授業で取り組まないと、学生たちは能動的な授業態度を身に付けることができないと思う。
- ・学生間で活用能力に個人差があるため、学習活動の進捗状況にタイムラグが生じやすく、授業方法の工夫が求められると感じた。

③その他

- ・学生が教育実習において ICT を活用した授業を行うには、大学入学後に計画的な学修の積み上げが必要であると感じた。当面は教員としての基礎的な活用能力を身に付けることを目指せばよいのではないかと感じている。

(3)授業全体の感想

- ・授業を受ける学生たちは、9月からの教育実習で、ICT を使った実際に授業を行うことから自分事として真剣に学んでいた。そうした真摯な学習態度が感じられた授業であった。
- ・学生にとって、こうした ICT 機器を、実際に何度も操作し、捜査に習熟できる環境を整えることが必要かと思う。
- ・お忙しい中、授業公開していただきありがとうございました。教育実習を目前に控えた学生にとって、本日の授業は大変有益なものとなったと感じている。ICT 活用を本科目の中でどう扱うか、また、学部や大学としてどう考えるかを今後検討していく必要がある。
- ・ICT とは何か、GIGA スクール構想とはどのようなものか、ICT を活用することの良さ、高松市内の小学校で導入されている ICT とは？など、基本的な質問に学生がほぼ答えることができなかったのは、参観者がいたため誤って答えることを避けたかったからでしょうか。理解することができていないのでしょうか。機器の操作の習得より、ICT の活用に関する理解の程度が気になりました。

4.2 参加者からの意見に対するコメント

研究授業及び授業検討会に参加された先生方のご意見に対し、教育内容と授業方法に分けて検討したい。教育内容については、現在、高松市で導入されている「SKYMENU Cloud」や電子黒板の基礎的な操作方法を取り上げたことについて好意的な意見が多かった。

「SKYMENU Cloud」や電子黒板の基礎的な操作方法を学ぶ機会は、これまで4年次後期の教職実践演習の授業内に実施される高松市総合教育センターの担当者からの指導に限定されていた。3年次の教育実習の事前指導で学ぶ機会を持つことに大きな意義があるという意見があった。実際、この数年は、高松市内で教育実習を行った多くの学生がタブレットパソコンや電子黒板を使用する機会があったと報告しており、ICTの活用は、今日の教育実習生として求められるスキルの一つとなっている。

また、タブレットパソコンを操作する前に、学校現場でのICT活用状況などについてパワーポイントで講義したことで、学生が学校現場でICTを活用するイメージを持たせることができたのではないかという意見があった。今回の授業のねらいは、タブレットパソコンと電子黒板の基本的操作を身に付けるだけではなく、「GIGAスクール構想など近年の動向を把握し、小学校におけるICT活用の必要性について理解する」こともねらいの一つとしていた。受講学生とやり取りしながら、パワーポイントで説明したことにより、なぜ学校現場でICTが求められているか、教員がICT活用能力を身に付けることがなぜ必要なのかを意識づけることができたといえる。

授業方法についても好意的な意見が多く見られた。「二人一組で作業、一人で発表、全体に向けて講義など様々の形態で授業が展開されて、変化に富んでいた」という意見や、「少人数の利点を最大限にいかされ、行き届いた個別指導や教員と学生の双方向のやりとりのある授業であった」という意見があった。このような授業の形態は、本時に限らず意識している点である。すなわち、一方的に講義する授業ではなく、ペアや小グループで話し合ったり、発表する機会をできる限り設定したりすることである。授業の形態を工夫することで、授業に主体的に参加することができると考えている。今回の授業では、タブレットパソコンを一人一台に割り当てることが難しかったため、ペアで課題に取り組むようにしたが、結果的に、学生同士の交流が多く持つことができたのではないかと考えている。

また、体験的な授業方法についても好意的な意見が見られた。「カメラ、気づきメモ、ポジショニング、発表ノートなど、学生が実際に一つ一つ確認し、やってみることにより、操作できるようになった」という意見があるように、教員からの説明は最小限にし、学生たちがタブレットパソコンや電子黒板を触りながら学んでいくことを重視した。実際に試行錯誤しながら操作することで、新たな操作方法や機能を学ぶ様子が窺えた。使いこなすことが難しい場合は個別に指導することを想定していたが、多くのペアは自分たちで新しい操作方法に気づくことができていたため、この方法で特に問題なかったと考えている。

5. 今後の課題及び取り組み

最後に、発達科学部の先生方からの貴重なご意見を踏まえ、今後の課題及び取り組みに

ついてまとめたい。授業内容と授業方法どちらも好意的な意見が多く、大きな改善を指摘するコメントは少なかったため、今後も基本的な授業の進め方は継続していきたいと考えている。一方で、本授業の課題というよりは、学部全体にかかわる課題を指摘するコメントが多かった。例えば、「SKYMENU Cloud」や「デジタル教科書」を使った授業は、小学校で活用頻度の高い科目ほど、本学部でも「〇〇教育法」などの授業で、できれば2年生までに行うことができればよい」という意見や、「教員志望者が、今後、教員としてICTを活用できるようになるために、本学の授業科目でICT活用をどのように学べばよいか、授業科目や内容、時間数を、検討した方がよい」という意見など、学部のカリキュラムの改善を求める意見が多く見られた。前述したように、タブレットパソコンや電子黒板については、今回初めて触れる学生が多く、実習前に学ぶことに本授業の意義があるといえるが、一方で、より早い段階で学ぶ機会が必要ではないかという指摘である。実際のところ、2年次に教科指導法の授業が行われているものの、ICT環境を整備したマルチメディア演習室での授業はほとんど使われていないのが現状である。学校現場を訪問すれば、すでに児童にとって一人一台パソコンは当たり前になっており、授業で電子黒板を使うのも自然な風景となっている。このような状況が今後さらに発展していくことを踏まえると、教員養成を担う学部としてICT活用した授業実践により力を入れていく必要があり、教育実習事前指導に限らず、多くの授業で扱うように改革していく必要がある。まずは筆者が担当している2年次の道德教育論で扱うことで、他の授業にも広げていくようにしたい。

以上の課題に関連し、教育実習事前指導では、ICT活用に関してどこまで扱うのかを検討する必要がある。「学生が教育実習においてICTを活用した授業を行うには、大学入学後に計画的な学修の積み上げが必要であると感じた。当面は教員としての基礎的な活用能力を身に付けることを目指せばよいのではないかと感じている。」や、「学生にとって、こうしたICT機器を、実際に何度も操作し、捜査に習熟できる環境を整えることが必要かと思う。」という意見があった。今回の内容では、初めて触れる学生が多いため、基本的な操作が中心になった。しかしながら、実際に学校現場では、国語や算数などの各教科や道德などで、ICTを取り入れた授業が求められている。ICTを基盤に、どのように教材を扱うか、グループでの活動を取り入れるか、発表方法をどうするかなど、ICTを活用することで授業の様々な工夫が可能となる。今回は、道德の教材を扱い、ポジショニングや発表ノートを使った授業を取り入れたが、十分な時間は取ることができなかった。教育実習前の時期を踏まえると、基本的な操作方法よりも、学生自らが授業を考案し、実践することに力を入れる必要がある。次年度以降は、道德教育論でICTを活用した授業を取り入れることに加え、教育実習事前指導で1回のみではなく、複数回実施することで、学生が準備し、授業実践を行う機会を設定したいと考えている。

最後に、本研究授業に対する先生方のご指導と、意欲的に授業を受講してくれた学生に、心より感謝いたします。